



Daiwa House®
Group

News Letter



2025年2月20日

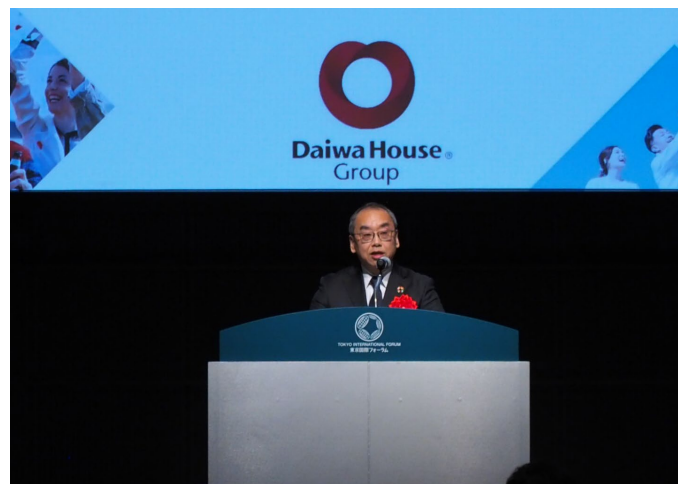
報道関係各位

大和ハウス工業株式会社
代表取締役社長 芳井敬一
大阪市北区梅田 3-3-5

第6回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の 環境サステナブル企業部門で環境大臣賞（金賞）を受賞しました

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市、社長：芳井敬一）は、2025年2月19日、環境省が主催する第6回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の環境サステナブル企業部門で、最高賞の環境大臣賞（金賞）を受賞しました。

なお、同アワードの受賞は、2021年の「銅賞」、2024年の「銀賞」に続く3回目です。



【表彰式でのスピーチのようす】
大和ハウス工業 常務執行役員 柴田英一

当社は、環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”の実現に向け、環境行動計画「エンドレス グリーン プログラム 2026」を策定し、中期経営計画や事業戦略と一体で環境経営を推進しています。このたび、温室効果ガス排出量の削減や緑化活動、建物の長寿命化・廃棄物削減といった、環境負荷“ゼロ”に向けた先進的な取り組みが評価され、環境サステナブル企業部門で環境大臣賞（金賞）を受賞しました。

今後も当社は、幅広い環境活動を通じてお客さまと共に新たな価値を創り、活かし、高め、すべての人が心豊かに生きる暮らしと社会の実現を目指します。

■運営からの講評

社長メッセージにも打ち出されている ZEH・ZEB など環境事業へのコミットメントを前提に、本業を通じた環境貢献と企業価値向上が統合されており、先進的な取組を続けている。特に、日本初となる投資用不動産の投資判断基準へのインターナルカーボンプライシング制度の導入や、エンボディドカーボンの算出・削減についても取組を開始している点が高く評価された。サプライヤーに対する積極的な働きかけや、業界をリードする姿勢についても評価された。

●当社の主な取り組み

当社は、「気候変動の緩和と適応」「自然環境との調和（生物多様性保全）」「資源循環・水環境保全（長寿命化・廃棄物削減）」などの環境重点テーマを掲げ、環境負荷“ゼロ”に向けた取り組みを進めています。

1. 気候変動の緩和と適応

当社グループでは、バリューチェーンを通じた温室効果ガス排出量を 2030 年度までに 40%削減^{※1}することを目標に掲げ、まちづくり、事業活動、サプライチェーンそれぞれのカテゴリで目標を設定し、CO₂排出量の削減に向けた取り組みを進めています。

まちづくりにおいては、2030 年度までに原則全棟「ZEH・ZEB 化」や「太陽光発電パネル搭載」の実現に向けた取り組みを進めています。2023 年 4 月には、投資用不動産の判断基準として日本で初めて^{※2}、対象不動産の CO₂削減量を環境価値として金額換算し収益に加算するインターナルカーボンプライシング制度を導入しました。また、2024 年 12 月には、エンボディドカーボン^{※3}の削減に向け、BIM^{※4}データをもとにした CO₂排出量算定ツール「Integrated Carbon Tool（インテグレートドカーボン ツール）」を共同開発し、建物の設計段階から CO₂排出量の削減を計画できる体制を整えました。

これらの結果、2023 年度は、当社グループの ZEH・ZEB 率が大幅に向上し、販売物件における使用段階の温室効果ガス排出量は 52.2%減^{※1}となりました。2026 年度に 58%削減^{※1}することを目指し、今後も快適性と省エネを両立した住まいや施設を提供していきます。

※1. 2015 年度比。

※2. 当社調べ。

※3. 建築物の輸送や建設、修繕、廃棄・リサイクルなど、運用以外で排出される CO₂などの温室効果ガスの量。

※4. デジタルモデリングを使用して、初期設計から建設、保守、最終的に廃棄に至るまで、建築資産のライフサイクル全体にわたる情報管理の仕組み。

2. 自然環境との調和（生物多様性保全）

当社グループでは、ネイチャーポジティブ^{※5}の実現に向けて、お客さまに在来種を用いた緑化の提案を進め、地域の生態系に配慮した緑を創出しています。この活動が都市の生物多様性保全にもたらす効果を、外部との協働により定量的に評価・検証した結果、実施しなかった場合と比べて、保全効果が約 3～5 倍になることを確認できました。

今後は、2030 年度までに地域の生態系に配慮した緑被地を 200 万 m²以上創出することを目指し、生物多様性保全の取り組みを進めていきます。

※5. 生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せること。



【生物多様性を維持するために
植栽を施した分譲マンション
「プレミスト湘南辻堂」】

3. 資源循環・水環境保全（長寿命化・廃棄物削減）

当社は、住宅・建築・街づくりでの環境配慮など、事業戦略と一体化して推進する戦略的環境活動を重視し、「環境と企業収益の両立」を目指しています。環境重点テーマの一つである資源循環の達成に向けては、建物の長寿命化とストック市場の活性化を掲げています。これを実現するため、グループ統一の住宅ストックブランド「Livness（リブネス）」を通じて、既存住宅のリフォーム、買取再販、仲介などの取扱件数を KPI に設定し、積極的に取り組んでいます。さらに、非住宅建築におけるリブネス事業を強化するため、2024年5月には「BIZ Livness（ビズリブネス）」を本格始動しました。

今後は、社会のニーズに応じた再利用やコンバージョン^{※6}、買取再販の提案を強化するとともに、2030年代にはリブネス事業の売上高を1兆円規模にまで拡大し、長寿命化・廃棄物削減と不動産ストック市場の活性化に貢献していきます。

※6. 建物の解体や建て替えをせずに、建物の用途を変更すること。



【リブネス】



【ビズリブネス】

●環境に関する取り組み：<https://www.daiwahouse.com/sustainable/eco/>

■「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」の概要

「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」は、ESG 金融^{※7}の普及・拡大を目的として、環境・社会にインパクトを与え、持続可能なビジネスモデルへの移行に寄与しうる先進的な取り組みを行っている機関投資家、金融機関、仲介業者、企業などを表彰する制度です。環境サステナブル企業部門では、「環境関連の重要な機会とリスク」を「企業価値」向上に向け経営戦略に取り込み、企業価値の向上にもつなげつつ、環境への正の効果を生み出している企業を表彰します。



※7. ESG を考慮して行われる投資や融資のこと。

以 上

	エコ・ファースト企業	私たちは、「未来を見据えた自主的な環境行動によって、常に社会をリードし、現在と未来をつないでいきたい」との思いのもと、すべての企業活動を通じて、地球温暖化防止や資源循環などの環境活動に取り組んでまいります。
	環境大臣認定	
	We Build ECO	
	Daiwa House Group	

お問い合わせ先		
広報企画部	広報グループ	06 (6342) 1381
	東京広報グループ	03 (5214) 2112